

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2019.7) 平成30年度:61.

3交代から2交代の勤務体制変更後の安全ラウンドの有用性の評価

田中 誠子, 中村 智美

## 3交代から2交代の勤務体制変更後の安全ラウンドの有用性の評価

旭川医科大学病院 9階東ナースステーション

○田中誠子 中村智美

### 【目的】

A病棟は、高度急性期の外科病棟であり、医療・看護必要度は常に高く、せん妄や転倒リスクの高い患者が多い。平成29年11月より勤務体制を3交代から2交代制12時間夜勤勤務（以下2交代）へ変更後、各勤務開始前の初回ラウンドと長日勤の合間に看護師経験年数の異なる看護師2名による安全ラウンド開始した。患者への安全で良質なケア提供に向けた安全ラウンドの有用性を評価し、今後の課題を明らかにする。

### 【方法】

1. A期間 平成29年4月1日～11月11日（3交代）、B期間 平成29年11月12日～平成30年3月31日（2交代） A期間とB期間の転倒転落の発生率を比較する。
2. 勤務体制変更1か月前後と3ヶ月後に身体的・精神的負担に関する独自で作成した質問項目で構成したアンケート調査の平均値を比較する。
3. 倫理的配慮はA病院倫理委員会の承認を得た。アンケート調査の回答をもって同意が得られたと判断した。

### 【結果】

1. 転倒転落発生率は、A期間2.11%、B期間2.77%であり上昇がみられた。
2. アンケート回収率は、勤務体制変更前と3か月後は74.1%、1ヶ月後は87.1%であった。
3. 「患者が安心できる体制である」感じる（0点）、ほぼ感じる（1点）、変わらない（2点）のアンケート項目の平均値比較において、勤務体制変更1か月前は2.6点、勤務体制変更1か月・3か月後は共に2.4点と減少がみられた。

### 【考按】

転倒転落発生率は2交代後増加しており、術後せん妄や認知症の患者が繰り返し転倒転落をしているケースが3事例あった。0-1時台の転倒転落発生率が倍増しており、消灯直前の20時30分から勤務が開始となる夜勤者の安全に対する先取り介入の不足が考えられる。しかし、アンケート結果から看護師経験の異なる者同士で行う相互チェックは、安全な療養環境を整える気づきの視点を養い、患者状態に応じた転倒転落予防策を再確認・検討する事で患者の安全確保にむけた意識の向上につながっていると考えられる。今後は、安全ラウンドを行うタイミングや転倒・転落予防に関わる危険リスクの予知感性を高めるトレーニングを検討すると共に術後せん妄や認知症ケア看護に対する教育的取り組みが必要と考える。